

政の温もり

07ちば統一選

「財布を落としても定期券は落とすな」と言われるぐらいに深刻」

2月定例県議会の一般質問。民主党の軍司俊紀議員は地元・印西市など

千葉ニュータウンを走る北総線が抱える問題について、こう訴えた。

●半年24万円

北総線の運賃は日本一とも言われ、沿線住民からは値下げを求める声が根強い。千葉ニュータウン中央―東京・日本橋間の6カ月通勤定期代は24万3450円に上る。

北総線から京成線、都営地下鉄線と3社にまたがるためもあるが、中でも北総線の運賃の高さが際だっている。

「北総線の運賃値下げ

通勤通学

の現場では

設定される。一方、北総線は、運賃が高いのに加え、割引率も約6割にとどまっていたからだ。

団体メンバーの1人である元大手火災保険会社役員吉本幸弘さん(69)は本埜村Ⅱが原案を練り、県知事あてに要望書を出した。

設定される。一方、北総線は、運賃が高いのに加え、割引率も約6割にとどまっていたからだ。

●選挙公約に

04年7月の印西市長選。現職の引退や合併問題などがあり、新顔5氏による選挙となった。うち印西市議からくら替え候補した山崎山洋市長が、団体の提案を基に、通学定期の割引率引き上

を固め、初年度分を05年度一般会計当初予算案に提案した。

●2億円助成

各年度ごとの予算審議などを主張して、市議会予算委員会は市の提案を否決したものの、市側が折れたため、本会議では可決。通学定期補助が導入された。

「訴えていけば、住民の間に波紋が広がる可能性がある。そうすれば政治は放っておけなくなる」。政治を動かす市民活動の意義をこう見いだしている。(神元敦司)

「定期代へ助成」得る

その団体は01年6月、通学定期の割引率アップを最優先の課題に取り組み

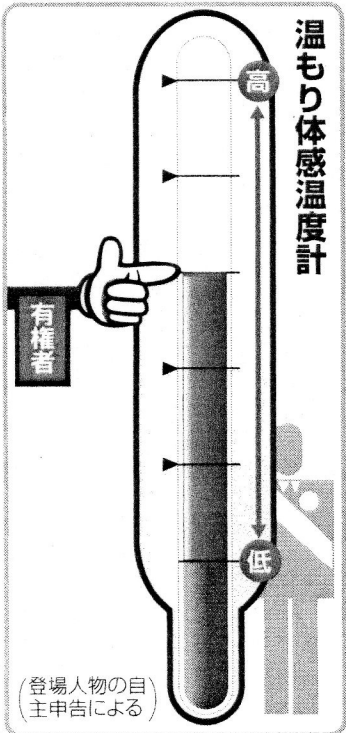
粘り強く訴えた結果、印西、白井、本埜、印旛の4市村の議会で請願が採

りかねた。そのため団体は、山崎氏の支援団体として「色が付く」ことを避けるためにも、選挙

に闘争しなかった。山崎氏は9199票を得て初当選。その直後から検討に入り、通学定期代の一部を05年度から5

年間、市が負担する方針

温もり体感温度計



The Asahi Shimbun

有権者
登場人物の目
主申告による

「色が付く」ことを避けるためにも、選挙に闘争しなかった。山崎氏は9199票を得て初当選。その直後から検討に入り、通学定期代の一部を05年度から5年間、市が負担する方針で検証してみた。